オオカミ男の紅茶会

桜井ハルト

よぉ、そこのあんた。

今、ひまかい？
時間があるなら、うちに寄ってよぉ、
かわいそうなオレの話を、聴いちゃあくれねぇか――？

オオカミ男の紅茶会

まったく、ついてねぇんだよ……今日のオレは。
なぁ、聴いてくれよ。

……おぉっと、その前に、そうそう、茶くらいなら入れるぜ。
とびきりおいしい木苺のミルクティーさ。
なんてったって、今日は特別な日だからな。

……ん？

何の日かって……？

冗談はよせよ、知ってるんだろ。
ハロウィンさ、ハロウィン。
月もいい具合に満ちてる。
祭りの日だ、みんなで仲良くやろうぜ、ってな。

そんな特別な日にゃ、朝からテンションも上がるもんさ。
……なぁ、あんたもわかるだろ？

オレも気分は上々で、久しぶりに遠くの町まで出かけて行ったんだ。
こんな薄暗い森から離れて、明るい日差しのもとを歩いたってわけよ。

……ああ、それが、まぶしいのなんのって、
まあ、多少目には痛ぇが、毛を日に干すにはちょうどいい天気さ。

オオカミ男と紅茶会

おぉっ、湯が沸いたな……ちょっと待てよ。

よっと……紅茶はこれでよし、だ。
あとは木苺をすりつぶして、ミルクに入れて、っとぉ。
ふふん、なかなか器用なもんだろ？

ほら、出来たぞ。
砂糖は適当にとって入れてくれ。そこの皿にあるだろ？

あぁ、そうそう、それで遠くの町に行ってきたんだ。
もちろん、狙いはヒツジさ。今日のディナーの、な。
オレは茶も飲むし、野菜も食うが、やっぱり羊の肉は最高だぜ。

……おぉ！　そうか、うまいか。
そりゃあよかった。おかわりもあるからな。

それでな……早速、放牧場に行ったわけだ。
広い土地に、これまた広大な牧草地。
丸々と太ったヒツジがわんさかいる。
思い出すだけで、よだれが出てくるぜ。
だけど、まあ、オレもただの獣じゃねぇ。オオカミ男さ。
きちんと、羊飼いと話をつけにいったのよ。
もちろん金だってある。

放牧場に走る道を歩いてると、
一人の羊飼いを見つけたんだ。まだ、ガキだったけどな。
まあ、子供とはいえ、取引のできねぇ歳でもなさそうだ。
そう思って近づくと、やつは目を丸くして腰抜かしやがった。

まったく、失礼な奴だ……そう思うだろ？
オレだって、この通り、きちんと正装していったんだ。
まあ、首から上はオオカミだけどな。
しょうがねぇだろ？
ここが無けりゃ、オレはただの“男”なんだからよぉ。

オオカミ男と紅茶会

それだけじゃねぇ、やっとのことで立ち上がったそいつは、
町の方へ走って逃げやがるんだ。

『オオカミが来たぞっ！！　オオカミ男が来たぞーっ！！』

……って、こう叫びながらな。
失礼じゃねぇか。こっちは金もある、客だぜ。
それに、オレにだって名前はあるんだ。

まあ、オレはオレで、ヒツジが欲しいんだ。
そのためにわざわざ町まで出て行ったんだからな。
急いでその子供を追ったわけよ。

そいつは、ずっと叫びながら、町の中へと入って行った。
『オオカミが来たぞっ！！　オオカミ男が来たぞーっ！！』　ってな。

だけど、不思議なことに誰もそいつの言葉に耳を傾けやしねぇ。

……ああ、完全に聞こえないふり、知らんぷりってやつだな。

『またか、このクソガキめっ！』
『ハロウィンが近いからって、何よ、そのアレンジはっ！』

そう言う声が、あちこちから聞こえてくんだよ。
どいつもこいつも白い目で見てやがった。
中にはそいつを蹴り飛ばすやつもいた。
子供が泣きながら叫んでるっていうのによぉ……。

ちょっと前までは、買わせねぇなら勝手にヒツジの一匹や二匹
放牧地からかっぱらってやろうと思ってたんだ。

だけど、なんだか、それ見ててよぉ……
オレ、悲しくなっちまって、何も買わずに町出てきちまったんだ。

……結局、この特別な夜に、ヒツジ無しってわけさ。

なぁ、ついてねぇだろ？

オオカミ男と紅茶会

だからよぉ……あんたが、オレのディナーになってくれよ。

――ははっ！　そんなに驚くなって。

オレはオオカミ男さ。
茶も飲むし、野菜も食うが、肉だって食う……もちろん、人の肉もな。

おぉ、止めとけ、止めとけ。逃げられやしねぇよ。
……ほぉら、うまく手も足も動かねえだろぉ？

あんた『しびれ苺』って知ってるか？

ふふん……それじゃあ、あとで図鑑で調べてみるといいさ。
あぁ、でも、オレの腹の中に書棚があればの話だけどな。

まあ、まあ、そう叫ぶなって。
オレぁ、人より耳がでけぇんだ、うるさくてしょうがねぇ……。
『おばあさんのお耳は、どうしてそんなに大きいの～？』
『それはね、お前の話をよく聴くためだよぉ♪』　ってなぁ。

ほぉら、今日は特別な日さ！
楽しくいこうぜ？

まあ、なんだ……あれだな

こんな間抜けな客にありつけるなんて、今日のオレは最高についてるぜ――

オオカミ男の紅茶会

http://p.booklog.jp/book/42081

著者：桜井ハルト
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/spring-rabbit/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/42081

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/42081

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.